

[学術論文]

***According to N*の意味と名詞形：**
*according to plan*と*according to the plan*の違い

Meanings and Noun Forms of *According to N* :
according to plan and *according to the plan*

日 木 満

Mitsuru HIKI

Studies in Humanities and Cultures

No. 15

名古屋市立大学大学院人間文化研究科『人間文化研究』抜刷 15号
2011年6月

GRADUATE SCHOOL OF HUMANITIES AND SOCIAL SCIENCES

NAGOYA CITY UNIVERSITY
NAGOYA JAPAN

JUNE 2011

[学術論文]

***According to N*の意味と名詞形：**

*according to plan*と*according to the plan*の違い

Meanings and Noun Forms of *According to N*：

according to plan* and *according to the plan

日 木 満
Mitsuru Hiki

0. はじめに
1. *According to*の辞書情報
2. *according to*に関する先行研究
3. 仮説と議論
4. まとめと今後の課題

要旨 本稿は「すべて計画どおりいった」という意味で、なぜ、*Everything went according to \emptyset plan*と*the*のない形が可能・自然になるのか、という問いを通して、*according to N*の意味と名詞形の関係について考察する。*according to N*はなんらかの拠り所を示す表現であり、拠り所の種類によって4つに下位区分することができ、その4種類の*according to N*を意識することが、*N*の位置を占める名詞の種類と名詞形についての制約を理解する上で重要であると主張する。具体的には、*according to N*は*N*に「名詞的な名詞 (nN)」と「動詞的な名詞 (vN)」の2種類の*N*をとることができ、動詞的な名詞の場合には、*N*の名詞形は[\emptyset N]形になる、とする仮説を提示する。

キーワード： *according to*、名詞形、動詞的な名詞、名詞的な名詞

0. はじめに

名詞を含む英語表現を意図どおりに使うためには、その表現の意味を理解した上で、冠詞や複数形などの選択を含む適当な名詞の形（名詞形）を選ばなければならない。しかし、筆者にはしばしばなぜその名詞形なのか疑問に思うことがある。例えば、「例のプロジェクトはどうでしたか」と聞かれて、「すべて計画どおりにいきました」と答えるときには、ある特定の計画があっ

での「計画どおり」なのであるから、(1b)のようにtheが必要になるのではないかと考えてしま
うが、(1a)のようにtheのない形も可能、もしくはtheのない形の方が普通、のようである。

(1a) Everything went according to ∅ plan.

(1b) Everything went according to the plan.

しかし、planがoriginal planとなると、今度はtheのない(2a)は許容されず、(2b)のようにtheをつ
けなければならない。

(2a) *Everything went according to ∅ original plan.

(2b) Everything went according to the original plan.

また、形容詞の有無に関わらず、名詞がplanからrulesに変化して、「計画どおりに」が「規則ど
おりに」になると、theのない(3a) (3b)は許容されず、(3c)のようにtheが必要になる。

(3a) *Everyone played according to ∅ rule.

(3b) *Everyone played according to ∅ rules.

(3c) Everyone played according to the rules.

(1)～(3)にみられる一見不規則そうに見える名詞形選択の背後にも、何らかの規則性があるはず
である。本稿では、“according to+名詞(N)”表現（以下、according to N）のNの形（名詞形）に
焦点を当て、according to Nの意味と名詞形の関係について考察し、現時点での仮説を提示する。

以下、第1節では、英語辞書や語法書で、どのような情報が提供されているかを概観する。第
2節ではaccording to Nに関する先行研究と本稿の関連性を議論する。第3節では、according to N
の意味と名詞形の対応関係についての筆者の仮説を提示する。

1. According toの辞書情報

1.1 英和辞典

英和辞典を参照すると、辞書によって語義の数も分類の仕方もかなり異なることに気付く。例
えば、『リーダーズ英和辞典（第2版）』ではaccording toの語義は細分化されておらず、「...に従
って、...によって；...しだいで；...（の言うところ）によれば」と訳語が併記されている。

『リーダーズ英和辞典（第2版）』

according to

—prep ...に従って，...によって；...しだいで；...（の言うところ）によれば。

arrangement according to authors 著者別の配列。

according to plan 計画どおりに。

I'll go or stay according to circumstances. 行くか残るか情勢しだいである。

according to the Bible [today's paper] 聖書[今日の新聞]によれば。

(1a)でふれたaccording to planが例文のひとつとして挙げられているが、名詞形に注目してすべての例文を見渡すと、[∅ Ns]形、[∅ N]形、[the N]形と様々であるが、特別、名詞形についての注意喚起も説明もない。

次に『ジーニアス英和大辞典』は、以下のように、3つの語義に分類し、according to NのNとしてどのような名詞がこれるかについての制約の情報も合わせて提供している。

『ジーニアス英和大辞典』

according to O

(1) 〈発言・文献・時計など〉によれば(...だそうだと); 〈(他の)人〉の話では(略 acc.)

according to my friend [my friend's report] 友人の話によると

according to legend 伝説によると 《◆成句的に用いられるものはしばしば冠詞を省略する; → (2)の用例》

According to the weather forecast, it will snow tomorrow. 天気予報によればあすは雪だ。

語法

(1) 通例第三者や権威ある機関についていうので according to me [you, my opinion, my view] は避け、in my [your] opinion [view] などとする。

(2) 自分はそう思っていないのに、という不満を表すこともある：A~ to Mary, I told a lie to her. メリーが言うには私は彼女にうそをついたということだ 《◆「私はそう思わない」を含意する》。

(2) 《正式》〈計画・約束など〉に従って、応じて、...と一致して(in agreement with);...次第でfrom each according to his abilities, to each according to his needs 〈Karl Marx〉能力に応じて各人から、必要に応じて各人へ 《◆「社会で個人はできることをし、必要なものを受け取る」の意》

act according to her instructions 彼女の指示に従って行動する

We started according to plan [schedule]. 計画[スケジュール]通りに出発した。

(3) 〈事〉の順に(in the order of), ...を基準として;...に比例して

We will pay you according to the amount of work you do. 君がする仕事の量に応じて給料を払おう。

It [That] is all according. ・略式・それは事と成行き次第である(It [That] all depends.).

まず、語義としては以下の3つとなっている。

- 1) 〈発言・文献・時計など〉によれば(...だそうだ); 〈(他の)人〉の話では
- 2) 《正式》〈計画・約束など〉に従って、応じて、...と一致して; ...次第で
- 3) 〈事〉の順に、...を基準として; ...に比例して

Nの制約については、2種類の情報が提供されている。ひとつは、名詞としてどのような名詞がこれるのかについてで、語義1の「によれば; の話では」の意味では、according to my friend's reportは不可で、according to my friendとしなければならないことや、語法(1)にあるように、me, you, my opinion, my viewなどの名詞は避けるべきとしている。この情報は、後述する先行研究の知見を反映したものと予想できる。もうひとつの情報は、本稿との関連でより重要な情報と言える。語義1の例文のひとつ、according to legend (伝説によると)に関連して、「成句的に用いられるものはしばしば冠詞を省略する」と書いてある部分である。「冠詞を省略する」ということであるから、名詞形についての直接的な言及である。また、参照事項として、「→ (2)の用例」とあるのでみると、確かに、(2)の用法の例文の中に、冠詞が省略されている例文がひとつだけあり、それが、本稿の関心の(1a)と同じ、according to plan [schedule]になっている。しかし、ここでの疑問は、according to legendやaccording to plan/scheduleだけがなぜ、冠詞が省略されるのかである。成句だから無冠詞ということになると、次は、なにをもって成句かという問題になるが、ここでの情報からだけでは、疑問として残ると言わざるをえない。(むしろ、無冠詞であるため、成句扱いしているという可能性もある。)

『研究社英和大辞典』も、同じく3つの語義を設定しているが、『ジーニアス英和大辞典』の3分類とは微妙に異なっている。

『研究社英和大辞典』

according to

(1) ...に従って, ...に応じて

according to the provisions of the law 法律の規定に従って, 法文に照らして

live according to one's income 収入に応じて生活をする

⇒ according to COCKER, according to HOYLE, according to PLAN.

(2) ...の見解によれば

according to the historian [The Times] その歴史家[タイムズ紙]によれば

according to his account 彼の話によれば.

★ to の後ろには情報源となる人物やデータがくる. opinionやviewなどは不可.

(3) ...次第で, ...を条件として. 《a1450》

『研究社英和大辞典』の語義2が、『ジーニアス英和大辞典』の語義1に対応していることは明らかであるが、他の語義については、語義の日本語からだけでは、対応関係はわかりづらい部分があるので、例文を照らし合わせてみると、『研究社英和大辞典』の語義1の2つの用例のうち、according to the provisions of the lawは、『ジーニアス英和大辞典』の語義2のact according to her instructionsに対応し、もう一方のlive according to one's incomeは『ジーニアス英和大辞典』の語義3のWe will pay you according to the amount of work you doに対応していることがわかる。残念ながら、『研究社英和大辞典』の語義3については例文がないため用法の照合は困難である。なお、本稿の関心のaccording to planについては、語義1の関連で、見出し語planの中の成句として参照するようになっている。そこをみると、以下のような記述になっている。

『研究社英和大辞典』

according to plan

(1) 予定通り

Everything will go [run] according to plan. 何もかも予定通りに行くだろう。

(2) 《皮肉》当初の計画通り

We always retreated according to plan. 退却するときはずっと「当初の計画により」だった。

この情報からは、(1a)のaccording to planが可能なのはわかるが、theがついたときの(1b)との違いや、(2a)ではtheがないと不可となる理由は見えてこない。

1.2 英英辞典

次に英英辞典を見てみる。英英辞典でも、辞書によって語義の分類はまちまちである。

まずOxford Advanced Learner's Dictionary (8th edition) (以下、OALD8) は簡潔な記述で、語義を2つに設定している。

OALD8

according to

preposition

1 as stated or reported by sb/sth

According to Mick, it's a great movie.

You've been absent six times according to our records.

2 following, agreeing with or depending on sth

The work was done according to her instructions.

Everything went according to plan.

The salary will be fixed according to qualifications and experience.

see **cut your coat according to your cloth** at **coat** n.

OALD8の語義1と語義2は、『研究社英和大辞典』の語義2と語義1にそれぞれ対応している。語義2の*Everything went according to plan.*の例文はまさに(1a)と同じ文であるが、**went according to plan**が太字になっていて、重要な連語 (important collocations) であることが示されている (Important collocations are printed in bold type within the examples. R13)。

次に、Longman Dictionary of Contemporary English (5th edition) (以下、LDOCE5) では、3つの語義に分かれている。

LDOCE5

according to S preposition

1 as shown by something or stated by someone :

According to the police, his attackers beat him with a blunt instrument.

There is now widespread support for these proposals, according to a recent public opinion poll.

▶ Do not say 'according to me' or 'according to my opinion/point of view'. Say **in my opinion** :

In my opinion his first book is much better.

2 in a way that depends on differences in situations or amounts :

You will be paid according to the amount of work you do.

3 in a way that agrees with a system or plan, or obeys a set of rules :

The game will be played according to rules laid down for the 1992 Cup.

*Everything went **according to plan**, and we arrived on time.*

LDOCE5の語義1はOALD8の語義1と同じであるが、OALD8の語義2を、LDOCE5は2つに分けて、語義2、3としている。語義の提示順は違うものの、LDOCE5の語義1、2、3は、『ジーニアス英和大辞典』の語義1、3、2にそれぞれ対応しているといえる。

LDOCE5においても(1a)とほぼ同じ、**Everything went according to plan, and we arrived on time.**が、語義3の用例の一つにあげられているが、筆者にとって大変興味深いのは、語義3の定義の英文の中での**plan**の使い方である。"in a way that agrees with a system or plan, or obeys a set of rules"とあるが、そこでの**plan**は明らかに可算名詞の**plan**でa systemのaが**plan**にもかかっていると思われる。定義の英文ではa **plan**となっているものがなぜ、**according to**のあとに続くとaがなくなってしまうのか。しかも、同じ語義3のもう一つの用例では**according to rules laid down for the 1992 Cup**

とrulesは可算名詞として用いられていて、なおさら、なぜ、planだけが、という思いが強くなる。

最後にCollins COBUILD Advanced Dictionary of English（以下、COBUILD）を見てみる。

COBUILD

according to

1. PHRASE

If someone says that something is true **according to** a particular person, book, or other source of information, they are indicating where they got their information.

◆ *Philip stayed at the hotel, according to Mr Hemming.*

◆ *He and his father, according to local gossip, haven't been in touch for years.*

2. PHRASE

If something is done **according to** a particular set of principles, these principles are used as a basis for the way it is done.

◆ *They both played the game according to the rules.*

3. PHRASE

If something varies **according to** a changing factor, it varies in a way that is determined by this factor.

◆ *Prices vary according to the quantity ordered.*

4. PHRASE

If something happens **according to plan**, it happens in exactly the way that it was intended to happen.

◆ *If all goes according to plan, the first concert will be Tuesday evening.*

COBUILDは今までみてきた辞書の中では一番多く、4つに分類している。3分類してるLDOCE5と比べてみると、LDOCE5の語義1と語義2が、COBUILDの語義1と3にそれぞれ対応しているが、LDOCE5の語義3は、COBUILDでは語義2と語義4に分割されていることが、それぞれの用例を見比べるとわかる。つまり、COBUILDの語義2のThey both played the game according to the rules.と語義4のIf all goes according to plan, the first concert will be Tuesday evening.の例文は、LDOCE5の語義3の2つの例文、The game will be played according to rules laid down for the 1992 Cup.とEverything went according to plan, and we arrived on time.にそれぞれ、対応している。

COBUILDの4分類を、2分類にしていたOALD8と比べると、さらに興味深い対応関係がみえてくる。両者の語義1が対応していることから、OALD8の語義2が、COBUILDの語義2, 3, 4に3分類されていることが想像できるが、OALD8では次の3つの用例が挙げられていて、

The work was done according to her instructions.

Everything went according to plan.

The salary will be fixed according to qualifications and experience.

それら1文ずつが、COBUILDの語義2, 4, 3にそれぞれ対応しているのである。おそらく、OALD8で3つもの用例が挙げられていたというのは、決して偶然というわけではなく、異なる3種類の用例を挙げる必要性が認識されていたものと想像できる。

本稿との関連で特に興味深いのは、COBUILDはOALD8ともLDOCE5とも違い、according to planを独立した1つの語義として扱っているものの、If something happens according to plan, ...という説明では、according to planという特定の一表現の説明をしているに過ぎず、意味の一般化が行われておらず、また、例文でもaccording to planの例しかないため、この語義で他の名詞で使う可能性については不明であるため、事実上、according to planをイディオムとして提示しているようなものである。果たして、何を基準に、語義をまとめる、もしくは分割すべきなのか、という悩ましい問題に直面することになるが、この点については筆者なりの考えを後程述べることにする。

以上、英和辞典、英英辞典それぞれ3種類ずつをみてきたが、少なくともこれらの辞書情報を概観した限りにおいては、どの辞書もaccording to planが可能な表現であることは明示してはいるものの、「計画どおりに」というわけであるから、特定の計画の存在が当然前提とされていて、したがって、the planとすべきと思われるのに、なぜtheがなくてもよいのか、また、plan, schedule以外にどのような名詞がtheなしで使用可能なのか、などの疑問についての直接的な答は得られなかった。

2. according toに関する先行研究

According toに関する先行研究 (Ross 1970; Leech 1980, Macleod; 1985; Bolinger 1990; 土屋 1990) を概観すると、考察の対象はもっぱら、『ジーニアス英和大辞典』の語義1の「...によれば (...だそうだ)」の用法に関するものであった (OALD8, LDOCE5, COBUILDの語義1, 『研究社英和大辞典』の語義2に相当)。この用法を「情報源」と呼ぶとすると、そこでの議論の主な関心は、情報源として導入できる名詞にどのような制約があるか、ということであった。第2節の辞書情報ですでにみたように、情報源を表わす名詞に制約があるとする立場は、以下のような記述に反映されている。

通例第三者や権威ある機関についていうので according to me [you, my opinion, my view] は避け、in my [your] opinion [view] などとする。(『ジーニアス英和大辞典』)

toの後ろには情報源となる人物やデータがくる。opinionやviewなどは不可。（『研究社英和大辞典』）

Do not say ‘according to me’ or ‘according to my opinion/point of view’. Say **in my opinion** : *In my opinion his first book is much better.* (LDOCE5)

基本的に制約はありとする前提に立ち、Ross (1970) は遂行的分析 (performative analysis) により、Leech (1980) は語用論的分析 (pragmatic analysis) からそれぞれ制約の説明を試みた。しかし、McLeod (1985) は、そのタイトル ACCORDING TO ME, SENTENCES LIKE THIS ARE O.K. が示唆するように、そもそも、according to meも可能になりうることを示した。土屋 (1990) は、according to と opinionやviewといった名詞との共起やme, youなどの代名詞との共起の制約についてのそれまでの議論を端的にまとめるとともに、英語母国語話者の間でもこれらの制約に関する見解にはばらつきがみられることを示唆している。

Bolinger (1990) は、語用論的な説明にはある程度の説明力はあるものの、分析対象が according to Nの一部の用法 (Nが人、もしくは人称代名詞の場合) に限定されていることを指摘し、全体像を見る必要性を主張した。具体的には、以下の7点をまとめとして提示している (Bolinger, 1990: 237-238)。

- (A) *According to* involves an appeal to authority.
- (B) The authority may communicate the reliability of a proposition (evidentiary) or determine a state of affairs (causative).
- (C) To be authoritative, an evidentiary source must be sincere.
- (D) The best authority is on that convinces, hence does not have a trivial base.
- (E) The most likely proposition for which evidentiary authority is cited is one that has already been considered; it is relatively “settled”.
- (F) It is unseemly to assume authority for oneself.
- (G) Various grammatical relationships – scope, clefting, subordination – are more predictable or less predictable, but are not probative. (Possible exception: the strong tendency of causatives to have narrow scope.)

Bolingerのaccording to Nの分類、例文、説明を表にまとめると以下のようなになる。

表1 Bolinger (1990) のまとめ

an appeal to authority	
the evidentiary	the causative
The authority communicates the reliability of a proposition [−control] [+communication]	The authority determines a state of affairs [+control] [−communication]
(15 ¹) <u>According to</u> Edna’s recollection, <i>the work was done</i> . (16) <i>The work was done</i> , <u>according to</u> Edna’s recollection. (The authority does not control the action, but communicates the reliability of the proposition. Someone, or something, tells.)	(14) <u>According to</u> Edna’s wishes, <i>the work was done</i> . (Edna’s wishes control the fact of doing in (14))
	(13) <i>The work was done according to</i> Edna’s wishes (Edna’s wishes control the doing in (13))
wide-scope	narrow-scope

Bolingerは、according to文には「権威への訴え(an appeal to authority)」が関与していて、その権威には、According to Edna’s recollection, the work was done.のように、ある命題の信頼性を伝える場合(evidentiary)と、The work was done according to Edna’s wishes.のように、ある事態を決定づける場合(causative)があるが、according to文は、文脈上の要因の相互作用に合わせて「権威への訴え」という意味内容を考慮しさえすれば、その限りにおいて意味は一つであり、あえて、2つのaccording toを区別する必要はないとする立場である。しかし、Bolingerの考察と説明はaccording to Nの鍵を握る“authority”の振舞いは、evidentiary用法とcausative用法では明確に異なっていることも同時に実に雄弁に示していると筆者は考える。

残念ながら、according to Nの全体像をみる必要性を説いたBolingerにおいても、according to NにおけるNの名詞形に関する議論はなかった。

山崎(2010)は、上述の一連の先行研究とは視点が全く異なり、コーパスデータ(BYU-OED)に基づいてaccording toがどのように発達してきたかを考察しているが、ここでも、考察の対象は情報源に限定されている。

以上、先行研究の概観からも、Everything went according to ø plan.において、なぜtheを必要しないのかをはじめとする、according to Nの意味と名詞形の関係についての筆者の疑問について直接的な知見を得ることはできなかった。

3. 仮説と議論

3.1 仮説

according to Nの意味と名詞形の関係についての、現時点での筆者の仮説は以下の通りである。

¹ 表1内の文番号はBolinger (1990) 内の番号を示す。

1. according to Nには4つの用法（意味）がある。
2. according to NのNには「名詞的な名詞（nN）」と「動詞的な名詞（vN）」の2種類がある。
「名詞的な名詞（nN）」は具体物、抽象物を問わず、なんらかの指示対象物であり、そのため、その語義や、数、特定性などを適当な冠詞や複数形語尾を組み合わせ示す必要がある。一方、「動詞的な名詞（vN）」は指示対象物がないため、名詞形は[∅ N]形になる。
3. according to Nは用法（意味）ごとに「名詞的な名詞（nN）」と「動詞的な名詞（vN）」のどちらをとるかが決まっている。

まず、仮説の全体像を示すと、表2のようになる。

表2 according to Nの意味と形の関係

命題Pを判断する際の抛り所 【情報源を示すaccording to N】 Who/What tells?	Vする際の抛り所 【指針を示すaccording to N】 How to V?		
【A】 【情報源を示すAT】	【B1】 【関数関係を示すAT】	【B2】 【順守を示すAT】	【B3】 【動詞的な名詞を示すAT】
nNによるとP nN tells	nNの関数としてVする $V = f(nN)$	nNを順守してVする By following nN	vされたとおりにVする As v-ed (to V)
According to Mick, it's a great movie. (OALD8)	The salary will be fixed according to qualifications and experience. (OALD8)	The work was done according to her instructions. (OALD8)	Everything went according to plan. (OALD8)
名詞的な名詞 (nN) [∅ N], [an N], [∅ Ns]. [the N], [the Ns], [one's N], [one's Ns]			動詞的な名詞 (vN) [∅ N]

以下、according to Nの4用法について説明する。

すべてのaccording to Nは「なんらかの抛り所」を示すが、抛り所の種類によって、まず、【A】、【B】に大別できる。【A】は命題P「...は...である」を判断する際の抛り所（Who/What tells?）で、【B】はVする際の抛り所（How to V?）である。

【A】 命題Pを判断する際の抛り所（【情報源を示すaccording to N】）

この用法はOALD8の語義1（as stated or reported by sb/sth）に相当する。according to NのNは情報源で、主節で提示されている命題「AはBである」（P）を判断するための抛り所を示す（Who/What tells?）。たとえば、According to Mick, it's a great movie. (OALD8) では、it's a great movieという命題Pの情報源がMickであることを示し、Who tells?という問いに対してMick does.と答えている。この用法を「情報源を示すaccording to N」と呼ぶことにする。この用法では、主節に命題(P)がきて、according to Nがそれを文修飾している。この用法で用いられるNは、情報源

を示すモノでなければならないが、先行研究で議論されていたように、情報源として特別な権威・価値をもつモノでなければならないという制約がある。具体的には上述のBolinger (1990) のまとめ(C) (D) (E) (F) の4項目が関与していると思われる。この用法でのNは指示対象物があるため、「名詞的な名詞 (nN)」であり、名詞形は、指示物Nの数や特定性などに合わせて適当な名詞形を選ぶことになる。

【B】 Vする際の拠り所 (【指針を示すaccording to N】)

この用法はOALD8の語義2に相当する。according to NのNは、Vする際の拠り所 (なにを指針にVするか) を示す (How to V?)。たとえば、The salary will be fixed according to qualifications and experience. (OALD8) では、qualifications and experienceが、salaryのfixの仕方の拠り所 (指針) であり、The work was done according to her instructions. (OALD8) では、“do the work” の仕方についての拠り所 (指針) が、her instructionsである。この用法を「指針を示すaccording to N」と呼ぶことにする。

指針を示すaccording to Nはさらに、指針の種類によって3つに分けることができる。

【B1】 Nの値 (独立変数) が決まればVする値 (従属変数) が決まる

この用法はLDOCE5の語義2 (in a way that depends on differences in situations or amounts) や COBUILDの語義3 (If something varies according to a changing factor, it varies in a way that is determined by this factor.) に相当する。このaccording to NのNは関数関係における独立変数に相当するもので、Nの値が決まると、according to Nが修飾している部分で示されている動詞句の値 (本稿では便宜上「Vする値」と表現する) が決まるという関係にある。関数式 $y=f(x)$ にならえば、 $V=f(N)$ と表現できる関係かと思う。例えば、The salary will be fixed according to qualifications and experience. (OALD8) では、qualifications and experienceの値が決まると、salaryをfixする値が決まることになる。You will be paid according to the amount of work you do. (LDOCE5) では、the amount of work you doが決まると、Youがpayされる値がきまる。COBUILDの語義3は関数関係を明確に表現しているが、その例文Prices vary according to the quantity ordered. (COBUILD) のように、Vが能格自動詞になる場合もある。影山(2001)の枠組みで表現すると、この用法で共起するVは自他交替を示す能格動詞の場合もあり、COBUILDの例文は能格自動詞として用いられている例で、主語のpricesは内項、つまり、能格他動詞の目的語に相当する名詞となる。内項をy、外項をxで表わすと、文の構造としては、

[x+能格他動詞+y] (e.g., (they/we) vary salaries)

[y+能格自動詞] (e.g., salaries vary)

の二つが考えられる。COBUILDの例文のようにVが自動詞のときも、OALD8のfix the salaryや

LDOCE5のpay youのようにVが他動詞のときも、Vする値（varyする値、fixする値、payする値）としては同等に見ることができると考える。いずれの場合も、Nの値が決まると、Vする値が決まる、という関数関係を表わしている用法なので、本稿では、この用法を「関数関係のaccording to N」と呼ぶことにする。この用法では、「どのようにVするか」（“How to V?”）という問いに対して、「Nの値に合わせてVする」（Based on the function “V=f(N)）で答える形をとると考える。Nの値は独立変数（independent variables）を示すわけであるから、Nにくる名詞の種類としては、以下の例が示すように、サイズ、年齢、状況、為替相場、文脈、社会、など、変数になり得るモノという制約があるが、抽象物であっても指示対象物であるため、名詞の種類は「名詞的な名詞（nN）」で、名詞形の制約はない。

- The eggs are sorted **according to size**. 卵は大きさに分類される（ジ英大）
- They sat **according to seniority**. 年齢順にすわった（英活用）
- I'll go or stay **according to circumstances**. 行くか残るか情勢しだいである。（リ英和）
- Prices are variable **according to the exchange rates**. 物価は為替相場によって変動する。（研英大）
- Interpretations vary **according to the context**. 文脈によって解釈はさまざまに分かれる（研英大）
- The terminology used to designate the animal differs **according to the society**. 動物を呼ぶのに使われる専門用語は社会によって違う（ジ英大）

【B2】 Nを順守してVする（【順守を示すaccording to N】）

この用法はCOBUILDの語義2（If something is done according to a particular set of principles, these principles are used as a basis for the way it is done.）に相当する。例えば、They both played the game according to the rules. (COBUILD)では、the rulesを順守してVした（“play the game”した）ことを表わし、The work was done according to her instructions. (OALD8)では、her instructionsを順守してVした（“do the work”した）ことを表わす。この用法は、“How to V?”に対して、“By following N”と答えるものと考えられる。この用法に用いられるNは、計画、規則、信念、仕様書など、順守すべき対象に限定される。順守すべき対象は指示対象物であるため、Nは「名詞的な名詞（nN）」となり、名詞形の制約はないと考えられる。以下は順守を示すaccording to Nの例と思われるものである。

- Everything went **according to the original plan**. 万事最初の計画どおりに運んだ（英活用）
- The streets are laid out **according to a plan**. 市街は計画に基づいて設計されている。（研英大）
- He will have to retire this year, **according to company rules**. 会社の規則に従って今年（定年）退

職せざるを得ない

- She wants her son to act **according to his belief**. 彼女は息子に信念に従って行動してもらいたいと思っている (ジ英大)
- Everything has been done **according to specifications**. すべて仕様書どおりにしました (英活用)
- a dress shaped **according to the French style** フランス風のスタイルに合わせて作ったドレス. (ラ英大)

【B3】 vされたとおりにVする (【動詞的な名詞を示すaccording to N】)

この用法はCOBUILDの語義2 (If something happens according to plan, it happens in exactly the way that it was intended to happen.) に相当する。according to Nには、planのように、Nに動詞的解釈(受動)が可能な名詞(vN)を用い、全体として「vされたとおりに (Vする)」という意味で使われる用法があると仮定する。ここで小文字vは、according to vNのvNに内在する動詞的要素を意味し、本稿では「動詞的な名詞」と呼びvNと表記することにする。according to planの場合、planは名詞であることには間違いないが、動詞的要素が内在していると想定し、その動詞的要素(v=planする)を受動態で解釈して、according to vN全体で、概ね“as v-ed”に対応する意味、つまり、「planされたとおりに」という意味を表わしていると考え。『ジーニアス英和大辞典』ではWe started according to plan [schedule]. (計画[スケジュール]通りに出発した。)と、planと併記してscheduleを挙げていたが、このscheduleも「動詞的な名詞」vNで、全体として“as scheduled” (scheduleされたとおりに)の意味になる。この用法では、“How do V?”の問いに対して、この用法“As v-ed”と答えていると考えられる。筆者が想定した4種類のaccording to Nの中では、唯一「動詞的な名詞 (vN)」をとる用法であるため、本稿ではこの用法を【動詞的な名詞のaccording to vN】と呼ぶことにする。

この用法に用いられる名詞には非常に強い制約があることは、辞書の例文での種類が極端に少ないことや、according to planを成句として扱っている辞書があることから容易に想像できる。なお、この用法における名詞の種類は「動詞的な名詞 (vN)」と想定し、名詞形は[ø N]形になると仮定する。

筆者がこの用法の可能性があると考える用例を以下にあげる。

- No wonder then that the players, especially the home team, felt tense because spectators were unrelentingly severe on players who did not perform **according to expectation**. (Oxford Sentence Dictionary)
- I acted strictly **according to instruction**. 厳密に指示どおりに行動した. (英活用)
- Cook rice **according to direction**.

(<http://www.buffaloparrot.com/parrotfoodrecipes.htm>)

- This document's purpose is to provide a high-level design framework around which to build our project tracking system (a.k.a., ProjectTracker). It also provides a list of requirements against which to test the final project and determine whether we were able to successfully implement the system **according to design**.

(http://www.cs.utah.edu/~jamesj/ayb2005/docs/SDS_v2.htm)

- The lenses are cut with a machine to produce the prescribed curve, and then buffed and polished. The lenses must be shaped to fit the desired frame **according to prescription**.

(<http://www.career-descriptions.co.uk/optical-technician-career-description.htm>)

これらの用例では、according to NのNはすべて動詞的要素があり、上から順に、as expected, as instructed, as directed, as designed, as prescribedに相当する意味を示すものと考えられる。しかし、直ちに付け加えなければならないことは、これらの用例は、辞書やウェブ上の英文からの引用であるが、筆者が数人のネイティブインフォーマントに聞いた範囲では、Nの名詞形が[\emptyset N]形になっていることも含めて、これらのaccording to文が英語表現としては違和感を感じるインフォーマントも一部存在したということである。この点についてのネイティブインフォーマントの判断のばらつきについては、今後さらに調査の必要があるが、以下では、少なくともplanやscheduleではなぜ、[\emptyset N]形で全く問題ないのかを中心に、もし、上記の例で示した名詞も、同じ用法で[\emptyset N]形で用いられるのであれば、それはなぜか、を考える材料として利用する。

3.2 議論

ここでは、上で提示した筆者の仮説についていくつかの問題点を議論する。

まず、なぜ、【B3】用法のaccording to Nでは、plan, scheduleなど、ごく限られた名詞しか使用されず、しかも、その名詞形は[\emptyset N]形になるのであろうか。

現時点では筆者は、according to vNにおける名詞の制約については、次の2つの条件を満たしていなければならないのではないかと考える。

条件(1)：その動詞的要素において、vが[v to V] (Vするようにvする) もしくは、[v O to V] (Oに・がVするようにvする) の動詞の型で使われる動詞である。

条件(2)：according to vNが修飾する部分に、Vが言語化されている。

「ジーニアス英和大辞典」によれば、planは動詞用法の語義2として[SV to do/・ややまれ・doing] (人が) ...するつもりである(intend)」とあり、scheduleも語義1で「《正式》...を予定する;[be ~d to do] ...する予定である」とあり、それぞれ条件(1)を満たしている。一方、ruleの

動詞用法には、ruleのあとにto不定詞をとる動詞の型の紹介はない²。suggestについても、suggest to Vの用法の紹介はなく、「I suggest to start now. は不可」や「They ~ed him to go ... /・ He was ~ed to go ... の文型は不可」という記述からも明らかなように、[v to V]や[v O to V]でのsuggestの使用は不可となっている。この動詞の型の問題があるため、「~されたように」という意味でのaccording to NのNにこれる名詞は非常に限られたものになるのではないかと考える。

要するに、「vされたとおりにVする」の意味でのaccording to vNは、[... V ... according to vN]の構文で用いられて、「Vするようにvしていて (vされていて)、そのとおりにVする・した (Vされる・された)」という内容を伝える構文と言える。

上記の例では以下のように分析できる。

1. 「V (perform) するようにv (expect) されていて、そのとおりにVした」→ according to expectation
2. 「V (act) するようにv (instruct) されていて、そのとおりにVした」→ according to instruction
3. 「V (cook rice) するようにv (direct) されていて、そのとおりにVした」→ according to direction
4. 「V (implement the system) するようにv (design) されていて、そのとおりにVした」→ according to desien
5. 「V (shape the lenses) するようにv (prescribe) されていて、そのとおりにVした」→ according to prescription

次に、なぜ【B3】用法ではNが[ø N]形なのかについて考える。筆者はこのaccording to Nを「vされたとおりに (Vする)」という意味であると仮定しているが、もしその仮定が正しければ、その意味にはどこにも指示物はないため、実在物であれ抽象物であれ、名詞的な対象 (人・モノ) はそもそも不在となる。名詞的な対象の場合は、その名詞の数、特定性、さらには、意味の微調整などを冠詞や複数形語尾-sなどの組み合わせよって、適当な名詞形を選んで使う必要があるが、動詞的な名詞の場合は、名詞的な対象自体がないため、数や特定性を表わすことは不要であり不可能となるため、[ø N]形になるのではないかと、というのが筆者の考えである。

続いて、【B2】と【B3】の用法の関連性について議論したい。上の仮説では【B2】は「nNを順守しVする」と名詞的に捉え、【B3】は「vされたとおりにVする」と動詞的に捉えて、区別したが、どちらの用法も「順守」という概念でとらえることは十分可能である。実際、これら二つの用法の英文を日本語に訳すと、違いは見えなくなることもある。例えば、【B2】であげた最初の例 (Everything went according to the original plan. (英活用)) は、「万事最初の計画どおりに運んだ」と訳されていて、筆者からすると、名詞的な訳ではなく、動詞的な訳なので、あたかも、【B3】の訳のような印象を受ける。また、第1節でみたように、【B2】と【B3】を区別している

² 語義5に、「(裁判官・議長などが) …を裁決する; […であると] 裁定する [that節]; [SVO (to be) C] 〈人・事〉が…であると決定する《◆Cは形容詞(句)》(cf. decide)」とあるが、この場合は、be動詞は状態動詞であり、「Vする」という意味ではないため、条件(1)を満たしているとは考えない。

のはCOBUILDだけで、他の5つの辞書は少なくとも語義上は区別をしていない。では、【B2】と【B3】は区別する必要がないか、というと、筆者としては、区別することは重要だと考えている。なぜならば、筆者にとって、本研究のきっかけとなった、according to planとaccording to the planの違いや、なぜoriginal planの場合はtheがつかなければならないのか、なぜruleの場合はaccording to \emptyset ruleは不可なのか、などがわからなかったのは、まさに、この区別についての認識が欠落していたからだと思うからである。冒頭で示した文を再掲する。

- (1a) Everything went according to \emptyset plan.
- (1b) Everything went according to the plan.
- (2a) *Everything went according to \emptyset original plan.
- (2b) Everything went according to the original plan.
- (3a) *Everyone played according to \emptyset rule.
- (3b) *Everyone played according to \emptyset rules.
- (3c) Everyone played according to the rules.

planという単語は、according toのあとに用いられた場合、名詞的な名詞 (nN) としての解釈も、動詞的な名詞 (vN) としての解釈も可能な数少ない単語のひとつである。なぜなら、planという名詞は「計画、案、プラン」という意味の可算名詞[C]で、いくつかの計画か、どのような計画か、を問題にする意味は十分にある名詞で、これを名詞的な名詞 (nN) として用いることは全く問題ないし、さらに、planは動詞として用いられた場合に、plan to doの動詞の型で用いることができる動詞であり、筆者のいう動詞的な名詞 (vN) としての条件も満たしている。このことよって、(1a)と(1b)が両方可能になることは説明できると考える。

(1a)のaccording to planが可能なのに、(2a)のaccording to original planが許容されないのは、“original”という形容詞が、どのようなplanかに注目をむけている形容詞で、それに続くplanを名詞的に解釈することを要請すると考えれば、名詞的な名詞の場合で、可算用法の場合には、一般には[\emptyset N]形は許されないため、theもaもone’sも-sもついていない(2a)は不適格となる、と説明することができるように筆者には思える。

さらに、「計画どおりに」と「規則どおりに」は日本語訳で考えた場合、planとruleの名詞形に違いが生じることを予測することはむずかしいため、(1a)のaccording to planが可能なのに、(3a)のaccording to ruleが不可能なのはなぜかを、予測することも、説明することも困難かと思うが、本稿の仮説を当てはめれば、ruleという単語はplanと異なり、動詞として用いられたときに、rule to doという動詞の型で用いられることはないか、あっても一般的でないため、ruleを動詞的な名詞として[\emptyset N]形で使うことは不可能であるということも、ある程度説明できるのではないかと考える。

【B2】と【B3】の比較において付言すると、上で、【B3】の例ではないかと筆者が考える用例をネイティブインフォーマントに聞いたところ、一部のインフォーマントからは違和感が表明されたことを述べたが、どのような違和感であったかという、たとえば、**I acted strictly according to instruction.**や**Cook rice according to direction.**では、複数のインフォーマントから、 \emptyset instructionや \emptyset directionは許容できるが、 \emptyset instructionsや \emptyset directionsと複数形にしたほうがより自然に感じられる、自分なら複数形を使う、という趣旨のコメントであった。仮にこのコメントが、多数のネイティブスピーカーの直感を代弁しているものであったら、どのように解釈したらよいであろうか。最低限、[\emptyset N]形でも許容できるという前提に立つと、筆者の仮説では、まず、instructとdirectという動詞は、instruct/direct人to do somethingの動詞の型での使用が可能のため、「指示されたとおり・教えられたとおり」という動詞的な名詞をつかった【B3】の表現方法が可能なが説明できる。一方、instructionやdirectionを「指示に従って」と名詞的な名詞として捉えて【B2】の表現方法をとることについては、どうかというと、仮説の2点目で述べた、次が関係しているのではないかと考える。

「名詞的な名詞 (nN)」は具体物、抽象物を問わず、なんらかの指示対象物であり、そのため、その語義や、数、特定性などを適当な冠詞や複数形語尾を組み合わせて示す必要がある。つまり、名詞的な名詞の場合は、名詞の可算性が単なる、個体の数を表わすためでなく、その名詞内の語義の違いを微調整する機能も持ち合わせているという点が、instructionとdirectionの名詞形選択には、影響が出ているのではないかと考える。OALD8でそれらの名詞を引くと以下のように書いてある。

direction (OALD8)

5 [countable , **usually plural**] instructions about how to do sth, where to go, etc

Let's stop and ask for directions.

Simple directions for assembling the model are printed on the box.

instruction (OALD8)

1 instructions [**plural**] detailed information on how to do or use sth

SYN directions

Follow the instructions on the packet carefully.

Always read the instructions before you start.

~ on how to do sth The plant comes with full instructions on how to care for it.

2 [countable , **usually plural**] ~ (to do sth) | ~ (that...) something that sb tells you to do

SYN order

to ignore/carry out sb's instructions

I'm under instructions to keep my speech short.

He phoned you on my instructions.

He left strict instructions that the box should only be opened after his death.

上記の情報から明らかなように、「指示」の意味においては、directionもinstructionも複数形か通例複数形となっている。したがって、名詞的な名詞として捉えて表現しようとした場合、複数形にしなければならない、もしくは、複数形の方が通常、ということになる。この特性が、ネイティブインフォーマントの判断に影響を与えている可能性があるのではないかと、筆者は想像する。一方、「計画・案」という意味におけるplanには、このような複数形の使い方はない。そのため、(1a)と(1b)ではtheの有無だけが問題になり、複数形にするしないの問題は生じなかったのではないかと考える。

最後に、本稿では、according to \emptyset planやaccording to \emptyset scheduleという普段は可算用法の名詞であるplanやscheduleという名詞が[\emptyset N]形になることを説明するために、「動詞的な名詞 (vN)」という概念を導入した。仮に、この仮説が多少なりとも説明力があつたとしても、上で述べたように、この【B3】用法で用いられる名詞は非常に限られているため、アドホックな説明ではないかという指摘が想定できる。どうせ、planとschedule、それにせいぜいいくつかの名詞のためだけに、ことさら動詞的な名詞などということを行わなくても、イディオムや慣用句として扱えばそれで済むのではないかと。これらの指摘に対しては、現時点では十分な説明をすることが筆者にはできず、今後の課題としたいが、可能性としては、決してaccording to Nだけの話ではなく、他の前置詞の目的語でも、他動詞の目的語としても、本稿で想定した[\emptyset N]形の「動詞的な名詞 (vN)」と名詞形についての制約がない「名詞的な名詞 (nN)」の区別が有益になる場面があるのではないかと考えている。一例をあげると、behindという前置詞も名詞的な名詞 (He is behind the door/schedule.) と動詞的な名詞 (He is behind \emptyset schedule.) をとることができ、動詞的な名詞の場合は、「予定表の背後に」でなく、「予定していたのより遅れて」という意味になるのではないかと考える。

4. まとめと今後の課題

本稿はaccording to Nの意味と名詞形の対応関係について考察した。according to Nはなんらかの拠り所を示す表現であるという大前提にたった上で、拠り所の種類によって4つの用法(意味)を区別でき、それぞれの用法は、名詞的な名詞 (nN) か動詞的な名詞 (vN) のどちらかを取ることが決まっており、その一用法が、「動詞的な名詞をとるaccording to N」で、その場合は「vされたとおりにVする」という意味になり、名詞形は[\emptyset N]形になる、という仮説を提示した。「動

詞的な名詞をとるaccording to N」と、名詞的な名詞をとる「順守を示すaccording to N」とは、なにかを順守するという概念では共通しているが、あえてこの2種類のaccording to Nを区別することにより、日本語訳からだけは予測も説明もできない、名詞形の違いを説明できるようになるのではないかという主張を試みた。

今後の課題は山積している。まず、「動詞的な名詞をとるaccording to N」については、小規模なネイティブインフォーマントのデータしかなく、その中でさえも、かなりのばらつきがあるので、今後、より体系的な調査が行い、他にどのような名詞がこの用法で使用が可能かを調べる必要がある。また「動詞的な名詞をとるaccording to N」の用法がある場合、多くの場合は適切な名詞形さえ選択すれば「順守を示すaccording to N」としての表現も可能になるはずなので、その場合のニュアンスの違いについてもさらに調査する必要がある。

前置詞と動詞的な名詞との組み合わせについては、宮前（1998）がすでに詳細な研究を行っている。今後は宮前の前置詞と名詞の分析と考察に、本研究がどのように関連付けられるかを考えていきたい。

また、「動詞的な名詞」という本稿で使用した用語については、「動詞的な名詞verbal noun (Nv)」（相沢1999）、「デキゴト名詞」（影山1999）など、先行研究ですでにさまざまな類似した用語が使用されている。今後、これらの用語との関連性と違いについても詳細な検討が必要である。

参考文献

- Bolinger, D. (1990) "According to." *Journal of English Linguistics* 23, 225-238.
- Leech, G. N. (1980) *Explorations in Semantics and Pragmatics*. Amsterdam: John Benjamins.
- Macleod, N. (1985) "ACCORDING TO ME, SENTENCES LIKE THIS ONE ARE O.K." *Journal of Pragmatics* 9, 331-343.
- 相沢佳子 (1999) 『英語基本動詞の豊かな世界 名詞との結合にみる意味の拡大』開拓社叢書8 開拓社
- 大沼雅彦. (1981) 「ACCORDING TO NPの「文法」」『人文研究(大阪市立大学文学部紀要)』32-6: 108-123.
- 影山太郎 (1999) 『形態論と意味』日英語対象による英語学演習シリーズ2 くろしお出版
- 影山太郎 (編) (2001) 『日英対照 動詞の意味と構文』大修館
- 土家裕樹 (1990) 「according toの語用論的分析」『京都学園大学論集』19-3: 121-130.
- 宮前一廣 (1998) 『日英比較 前置詞の文法』松柏社
- 山崎 聡 (2010) 「BYU-OEDを利用した研究事例—情報源を表すaccording toの用法の発達について (シンポジウム フリーオンラインコーパスの活用と英語学研究—BYU-Corporaを中心に)」『英語コーパス研究』17: 189-203

辞書

- Collins COBUILD Advanced Dictionary of English [COBUILD]. (2009) HarperCollins Publishers.
- Longman Dictionary of Contemporary English 5th Edition [LDOCE5]. (2009) Person Longman.
- Oxford Advanced Learner's Dictionary : Eighth Edition [OALD8]. (2010) : Oxford University Press.
- Oxford Sentence Dictionary (2008) Oxford University Press
- 『研究社英和大辞典』(2008) (研英大) 研究社

*According to N*の意味と名詞形：*according to plan*と*according to the plan*の違い

『新編英和活用大辞典』(2005) (英活用) 研究社

『ジーニアス英和大辞典』(2008) (ジ英大) 大修館

『ランダムハウス英和大辞典』(第2版)(1994) (ラ英大) 小学館

『リーダーズ英和辞典(第2版)』(2007) (リ英和) 研究社